

3 鹿島城址と琴路神社の祭りにみる歴史的風致

はじめに

本市は江戸時代、鹿島鍋島藩領であった。文化4年（1807）、高津原^{たかつはら}に鹿島城が築かれ、現在の新町をはじめ、周囲に城下町が形成された。明治7年（1874）、佐賀の乱^{のこ}に呼応した旧藩士らによって、鹿島城に火が放たれ、多くの建造物が焼失したが、遺った赤門や大手門、武家屋敷棟門、城の遺構が歴史を今に伝えている。その後、鹿島城址の一部は高等学校となり、かつての庭園部分は旭ヶ岡公園として整備された。ここでは、藩政期に始まった花見行事が現在も継承されており、多くの市民に親しまれている。

城址の南側を流れる中川の対岸には琴路神社があり、例大祭には鹿島城址周辺から琴路神社までの市街地を神輿や獅子舞が華々しく巡行する。

(1) 伝統的な活動の舞台となるまちなみ

1) 城下町と琴路神社周辺のまちなみ

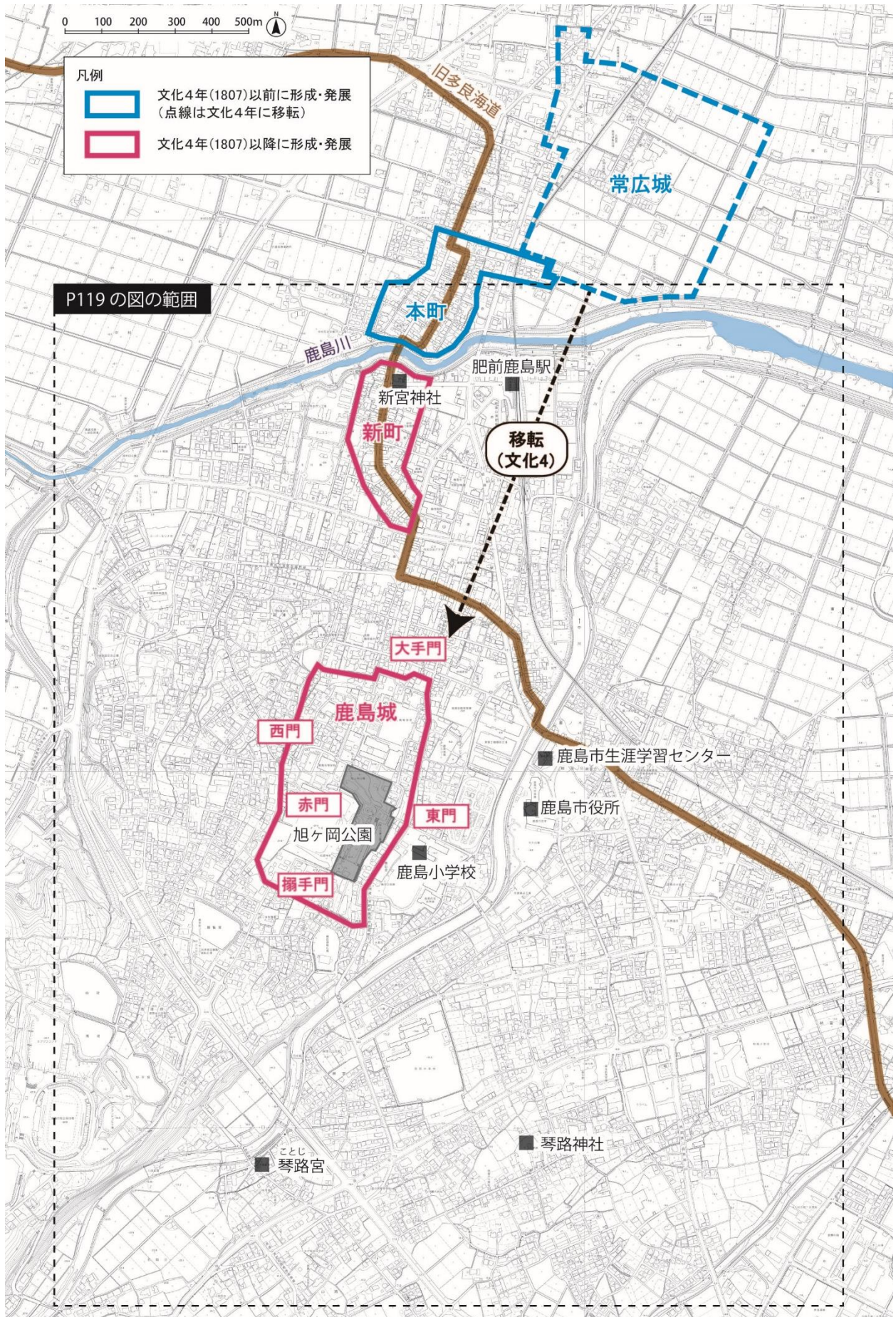
鹿島城は文化4年（1807）に北鹿島の常広城から移転してできたもので、本町は常広城の城下町として、新町は鹿島城の城下町として旧多良海道沿いに造られ、繁栄した場所である。かつての城下町の範囲では、間口が狭く、奥行きのある古い町割が残り、所々に幕末から明治、大正時代の古い家屋が残る。

琴路神社の祭りの範囲は鹿島川南岸にある新町^{しんみや}の新宮神社から、城下町を含めて、行成の琴路神社までの間と広域にわたり、城址周辺やかつての城下町を背景として巡行する。

鹿島地区に該当するこの範囲は、鹿島市役所や肥前鹿島駅などの公共施設や、商業施設が多く集まり、現在においても本市の中心的な市街地となっている。



写真 新町のまちなみ



図：鹿島城と城下町

(2) 伝統的な活動の舞台となる歴史的建造物

1) 鹿島城址

北鹿島の常広にあった鹿島藩の城が、現在の位置に移転して鹿島城となった。「鹿島城」は通称であり、正式には「高津原陣屋」、「高津原屋敷」、「鹿島館」などの名称で呼ばれる。幕末維新时期（江戸時代末期から明治初期）に作成された『元鹿島県陣屋絵図』に見られる鹿島城のあった区域一体には、土塁や堀、稲妻型に折れ曲がった道など、かつての遺構が残っている。城のあった位置には、現在の佐賀県立鹿島高等学校が建っており、そのほか、城跡の遺構をはじめ、旭ヶ岡公園、赤門、大手門、武家屋敷棟門、松蔭神社などの建造物が城址を構成している。

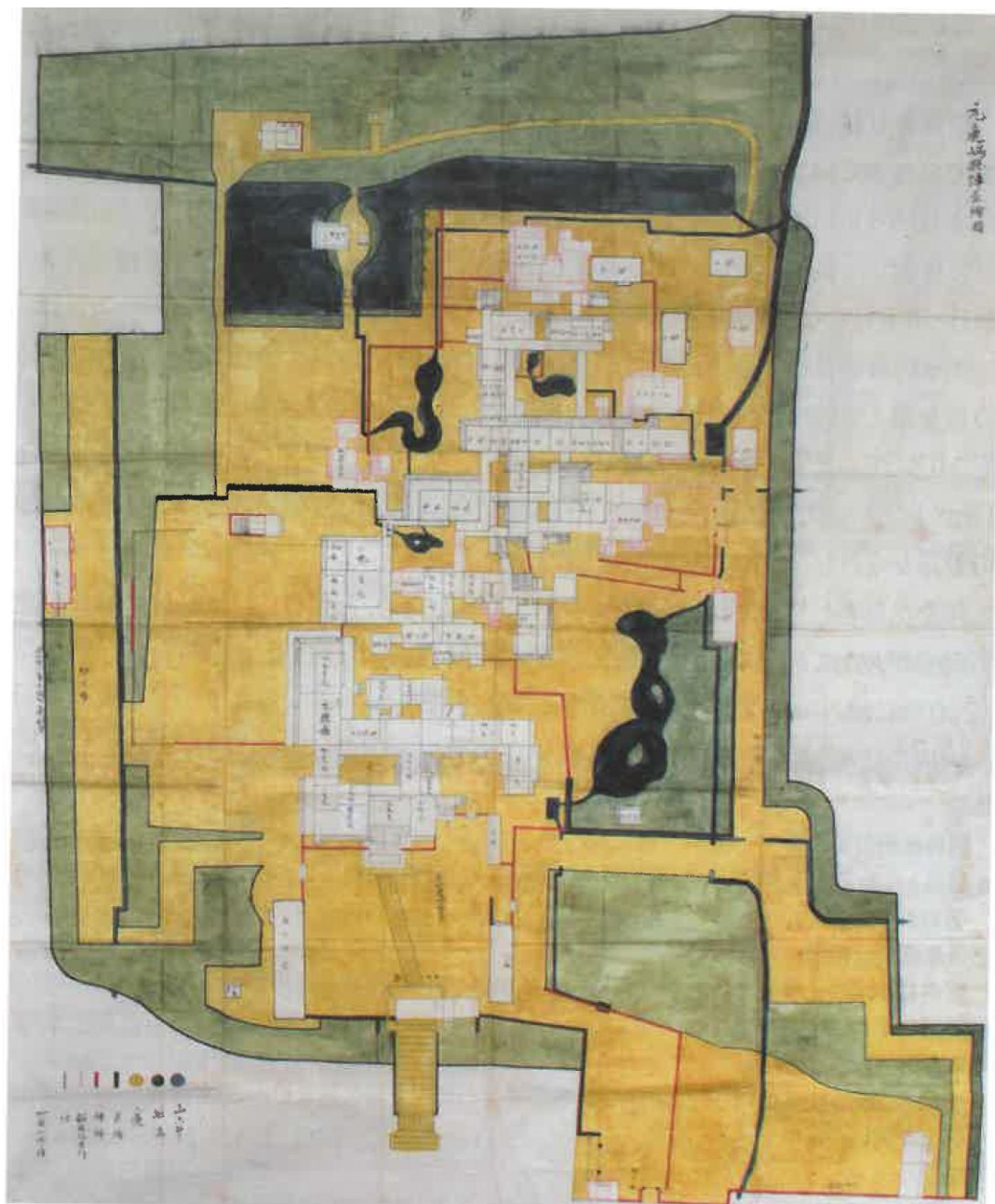


図 元鹿島県陣屋絵図（幕末維新时期頃）（鹿島市民図書館蔵）（『鹿島市の文化財～ふるさと歴史探訪～』より転載）

2) 旭ヶ岡公園と花のトンネル

旭ヶ岡公園は文久2年(1862)、13代藩主直彬なおよしが鹿島藩の館(現在でいう鹿島城)の敷地の一角(現在の松蔭神社境内まつかげじんじや)に多くの桜を植え観桜の宴を催した、「衆楽園しゅうらくえん」と呼ばれる庭園が基になっている。公園内には衆楽園の完成を記念して建てられ、元治2年(1865)の銘が入った「衆楽」の碑が残る。

その後も13代藩主直彬なおよしによる桜の木の補植、増植が進められ、明治20年(1887)に赤門から大手門に続く稲妻形の通路に植えられた桜並木は「花のトンネル」と呼ばれ、現在も人々に親しまれている。大正10年(1921)には松蔭神社の北東部外苑が整備され、旭ヶ岡公園となった。平成19年(2007)には「日本の歴史公園100選」に選ばれている。(『桜の名所旭ヶ岡公園のあゆみ』(2014)より)



写真 旭ヶ岡公園



写真 「衆楽」の碑



図 旭ヶ岡公園マップ (『鹿島城址旭ヶ岡公園』パンフレットを基に一部加工)

花のトンネル

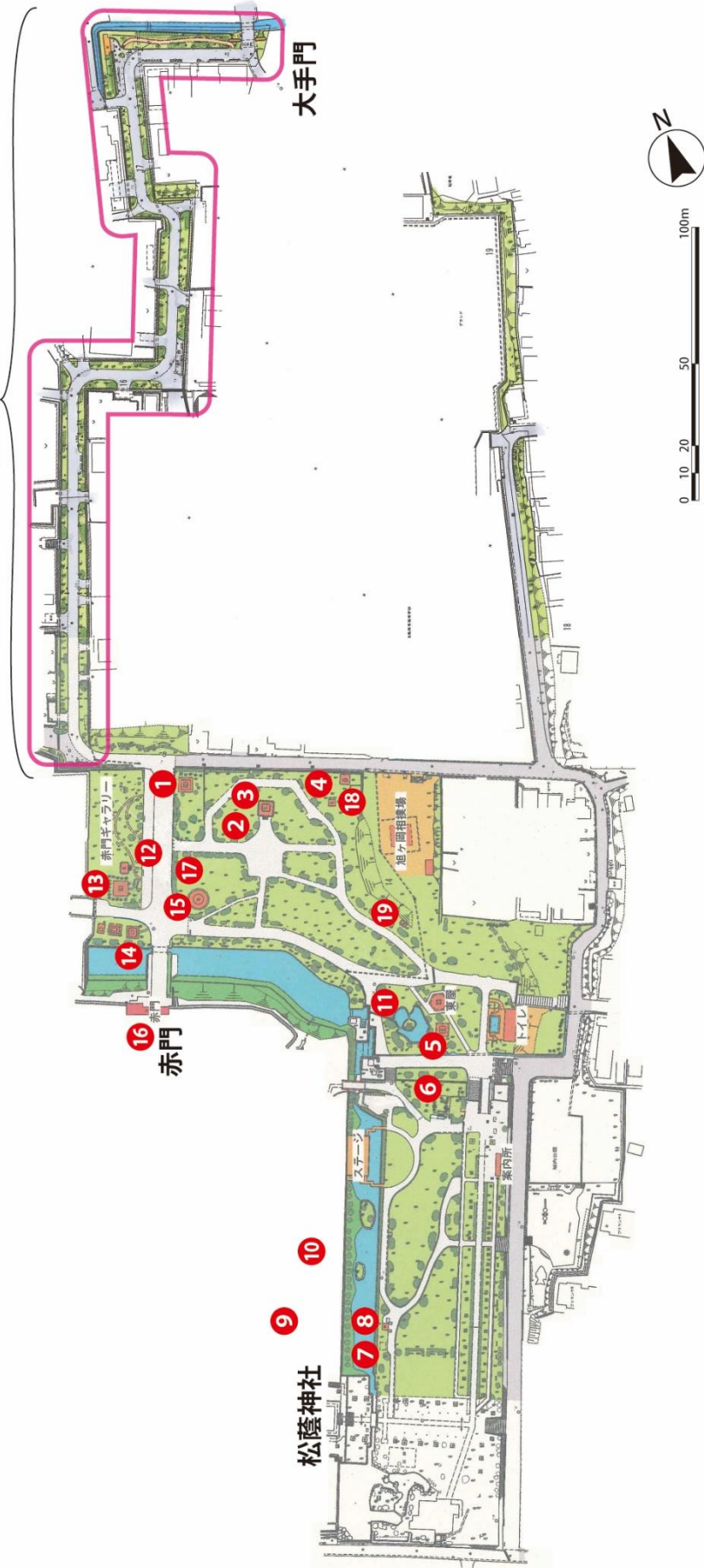


図 旭ヶ岡公園平面図（図中の番号は前頁図に対応）

3) 赤門

赤門は、常広城から移転し、鹿島城が鹿島藩の居城となった文化4年（1807）から1年後、文化5年（1808）に建築されたと分かる棟札が発見されている。本丸御殿の正門で、古くから丹塗りであった。切妻造棧瓦葺で正面右側に番所が付いている。現在は県立鹿島高等学校の校門として使用されている。



写真 赤門

4) 大手門

切妻造本瓦葺の高麗門ほんかわらぶき こうらいもんの形式である。当初は黒塗りであったものが、昭和27年（1952）に丹塗に塗り替えられている。棟札等の記録は無いが、赤門が建築された文化5年（1808）前後の年代に建築され、明治7年（1874）に起こった佐賀の乱の際に、赤門とともに焼け残った（調査報告書『鹿島城赤門及び大手門』（2010）より）。



写真 大手門

昭和33年（1958）1月23日に、赤門とともに佐賀県重要文化財に指定されている。

5) 武家屋敷棟門

鹿島藩の幕末期の家老原忠順の屋敷にある棟門である。檜はらただゆきの素木造けやき そぼくづくりで、正面の主柱と左右の支柱に分かれる4本の真柱で構成される。門の両側には白壁土塀が続いている。基礎に石垣を組み、その上に瓦片を積み重ねて藁を混ぜた赤土で固め、表面に漆喰を塗り、瓦屋根を乗せている（『鹿島市の文化財～ふるさと歴史探訪～』（2009）より）。



写真 武家屋敷棟門

（出典：『鹿島市の文化財～ふるさと歴史探訪～』）

建築年代は定かではないが、『鹿島の歴史と民俗』（1996）に、文化4年（1807）の鹿島城の移転に伴い、武士も移り住んだ旨の記述がある事や、慶応年間の鹿島城内図（『祐徳稲荷神社史（坤）』（1941）に掲載）に、原家の記載があることから、文化4年（1807）の鹿島城移転の時期に建築されたものであると推定される。

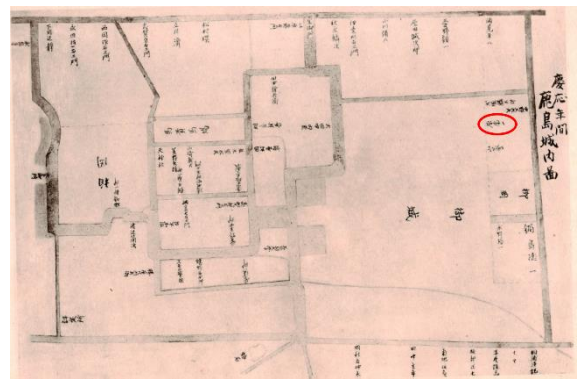


写真 慶応年間鹿島城内図

（『祐徳稲荷神社史（坤）』より転載）

6) 松蔭神社

松蔭神社は、寛永10年(1633)、初代藩主鍋島忠茂が北鹿島の常広城に内に歴代の鹿島藩主を祀ったのが起源とされ、城の移転後、文化6年(1809)鹿島城内に移った。現在の地に移ったのは明治3年(1870)のことであり、明治期の絵図にも神社地の明示がなされている。

境内には明治10年(1877)の年代の入った水盤や、明治11年(1878)の年代の入った石灯籠などの古い石造物が残る。



写真 松蔭神社

7) 琴路神社

『鹿島志』(1685)や『吉田家系図(写)』(1581)、『三嶽山縁起(写)』(1682)によれば、仁治2年(1241)、^{み たけじんじや}三嶽神社から溪流(現在の中川)に琴を流し、琴が留まった地に^{よしの ごんげん}下宮として吉野権現を勧請したものとされる。今日では、^{ことじぐう}琴路宮が中宮、新宮神社が下宮と位置づけられており、11月2日から3日には獅子、しめぶり、先払い、神輿、浮立などが鹿島新町の新宮神社まで巡行する例大祭(佐賀県重要無形民俗文化財)が、立春から^{さんろうでん}210日前夜にあたる8月31日の夜には^{かねぶりゅう}風避け(台風避け)祈願のため、^{いっせいぶりゅう}参籠殿で^{とおや}鉦浮立や一声浮立が奉納される「通夜(かつては夜通し浮立が奉納されていたため「通夜」と呼ばれている。)」が行われる(『鹿島市の文化財～ふるさと歴史探訪～』(2009)より)。

境内には、元禄2年(1699)の年代の入った石祠や、年代は不明であるが古い時代の建造様式である肥前鳥居や肥前狛犬などの石造物が多数残る。



写真 かつての草葺屋根の琴路神社(昭和20年代)
(出典:『昭和29年発行鹿島町制40周年記念誌』)



写真 琴路神社
(出典:『鹿島市の文化財～ふるさと歴史探訪～』)

8) 肥前鹿島駅

昭和5年(1930)に有明線(肥前竜王駅～肥前浜駅間)が開通し、肥前鹿島駅は有明線開通の昭和5年(1930)に建築されたものである。現在も駅舎の一部は旧状を保ち、特急の停まる駅として多くの市民に利用されている。



写真 昭和5年(1930)頃の肥前鹿島駅



写真 現在の肥前鹿島駅

9) 新宮神社

鹿島川南岸にある新町に位置する神社で、琴路神社の下宮にあたる。『鹿島の神社と寺院』(1991)によれば、鹿島城の高津原移転に伴い、文化5年(1808)に北鹿島より遷移されたものと伝わる。

11月2日の晩に琴路神社から新宮神社へ神輿がお下りの巡行をし、翌3日に新宮神社から琴路神社へ向けてお上りの巡行をする。

境内には明治18年(1885)の年代の入った明神鳥居や、文化5年(1808)の年代の入った石塔など、古い時代の石造物が多数残る。



写真 新宮神社

10) 琴路宮

市内納富分のうどみぶんにある神社であり、『三嶽山縁起』(1682)によれば、長禄3年(1459)に三嶽神社の中宮として創建されたとされている。

11月2日の琴路神社の例大祭では、神輿がお下りの巡行をする。

境内には享保11年(1726)の年代の入った石塔や、文政2年(1818)の年代の入った水盤などの古い石造物が多数残る。



写真 琴路宮

(3) 伝統や文化を反映した活動

1) 旭ヶ岡公園桜まつり

<桜まつりの歴史>

文久2年(1862)、鹿島藩13代藩主直彬は、日々、忠実に職務に従事している家臣と、農耕や織物の作業ばかりで楽しみの無い百姓たちの勤勉を慰労するため、鹿島城の敷地の一部(現在の松蔭神社境内)に「衆楽亭」を造り、多くの花木を植樹し、その庭園を「衆楽園」と命名した(『鍋島直彬公伝』(1970)より)。この衆楽園は、現在の松蔭神社境内と旭ヶ岡公園にあたり、旭ヶ岡公園内には「衆楽」の碑が残っている。

この衆楽園で、日々苦勞して働いている家臣や百姓たちに何とか楽しい1日を過ごしてもらいたいと、藩主、家臣、住民が一堂に会し、主人も客も無く、上下も無い、全くの無礼講の観桜親睦会が開かれたのが、現在に続く旭ヶ岡公園での花見の始まりとされる。『鍋島直彬公伝』には、一面の桜の中、領内5ヶ村から弁当を持ち寄った人々や藩の家臣が入り混じり、笑い声や酒樽を叩いて歌う声を響かせながら皆が楽しむ様子を、直彬公があちらこちらを廻って楽しそうに眺めていた様子が記されている。

鍋島直彬公による桜の植樹はその後も続き、明治20年(1887)には大手門から赤門に通じる道に「花のトンネル」と呼ばれる桜並木ができるなど、旭ヶ岡公園の周辺には桜の木が増えていく。

鍋島直彬公による観桜の宴以降、旭ヶ岡公園周辺が花見の場として定着していく中、大正3年(1914)には九州初となる夜桜電飾が行われ、その宣伝効果により花見客が増加し、旭ヶ岡公園は桜の名所として一層有名になった。

昭和30年(1955)頃には、堀の上に設置された水上ステージでの出し物や、お化け屋敷の設置、サーカスの巡業といった花見と一緒に楽しむ催し物も多数開催されており、大人から子供まで大変な賑わいを見せていた。



写真 「衆楽」の碑



写真 花のトンネル

(出典：『昭和29年発行鹿島町制40周年記念誌』)



写真 昭和30年(1955)頃の旭ヶ岡公園の花見

(出典：『桜の名所旭ヶ岡公園のあゆみ』(2014))

鍋島直彬公やその後の地域の人々が植樹した桜の樹は、旭ヶ岡公園だけでなく、花のトンネルや「武家屋敷棟門」のある原家をはじめとした武家屋敷が立ち並ぶ通り（通称「武家屋敷通り」）にも広がっており、これらの桜の樹は、地域の人々が保存・補植活動を続けてきた。

現在においても、昭和 60 年（1985）に行政やさまざまな民間団体が一緒になって設立し、鹿島青年会議所が事務局を務める「桜樹保存会」として、地域の人々が主体となって城址周辺の桜の樹の保存活動を行っている。昭和 60 年（1985）2 月 1 日の佐賀新聞には「自慢の桜散らすな」とのタイトルで、市や青年会議所が中心となって保存会の設立を呼びかけたとの記事があることから、昔から行政や民間団体が協力して城址を彩る桜の景観を守り続けてきたことが分かる。

平成 25 年（2013）には、夜桜電飾点灯 100 周年を記念して、市や市内の事業所、団体が協力して、一時期休止されていた夜桜電飾を再開させており、ぼんぼりの灯りにぼんやりと浮かぶ夜桜の中に、夜桜電飾が始まった大正時代の風情が感じられるようになった。

近年においては、桜まつりの時期には、地元の商店街の店先や街路に桜の造花が飾られるなどの取組みも行われ、町全体に桜の時期を楽しむ雰囲気が広がっている。

現在においても、桜まつりの時期には公園内に屋台が立ち並び、人々は桜を眺めながらの散策や、桜の下での宴会を楽しんでいる。また、旭ヶ岡公園内だけでなく、花のトンネルや、武家屋敷通りの桜並木を散策する人も多く、城址一帯が賑わっており、桜の時期の鹿島城址一帯の賑わいは、江戸時代から続く春の風物詩となっている。



写真 旭ヶ岡公園の花見

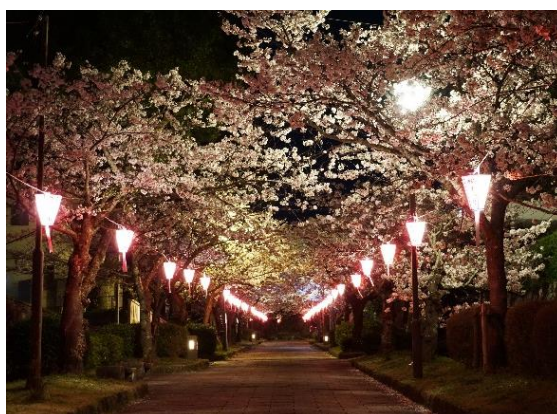


写真 ぼんぼりによる夜桜電飾

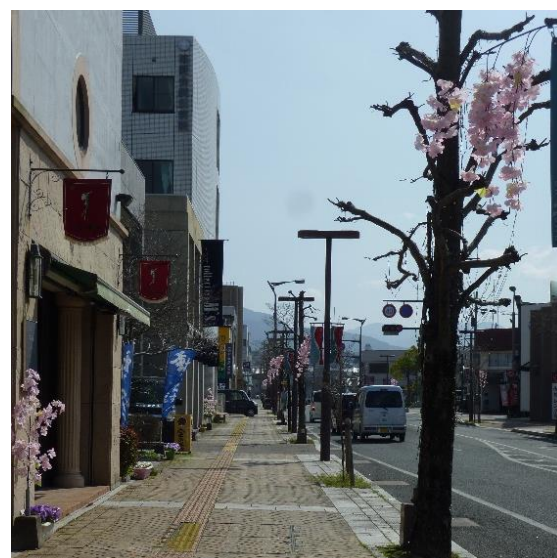


写真 商店街の桜の装飾

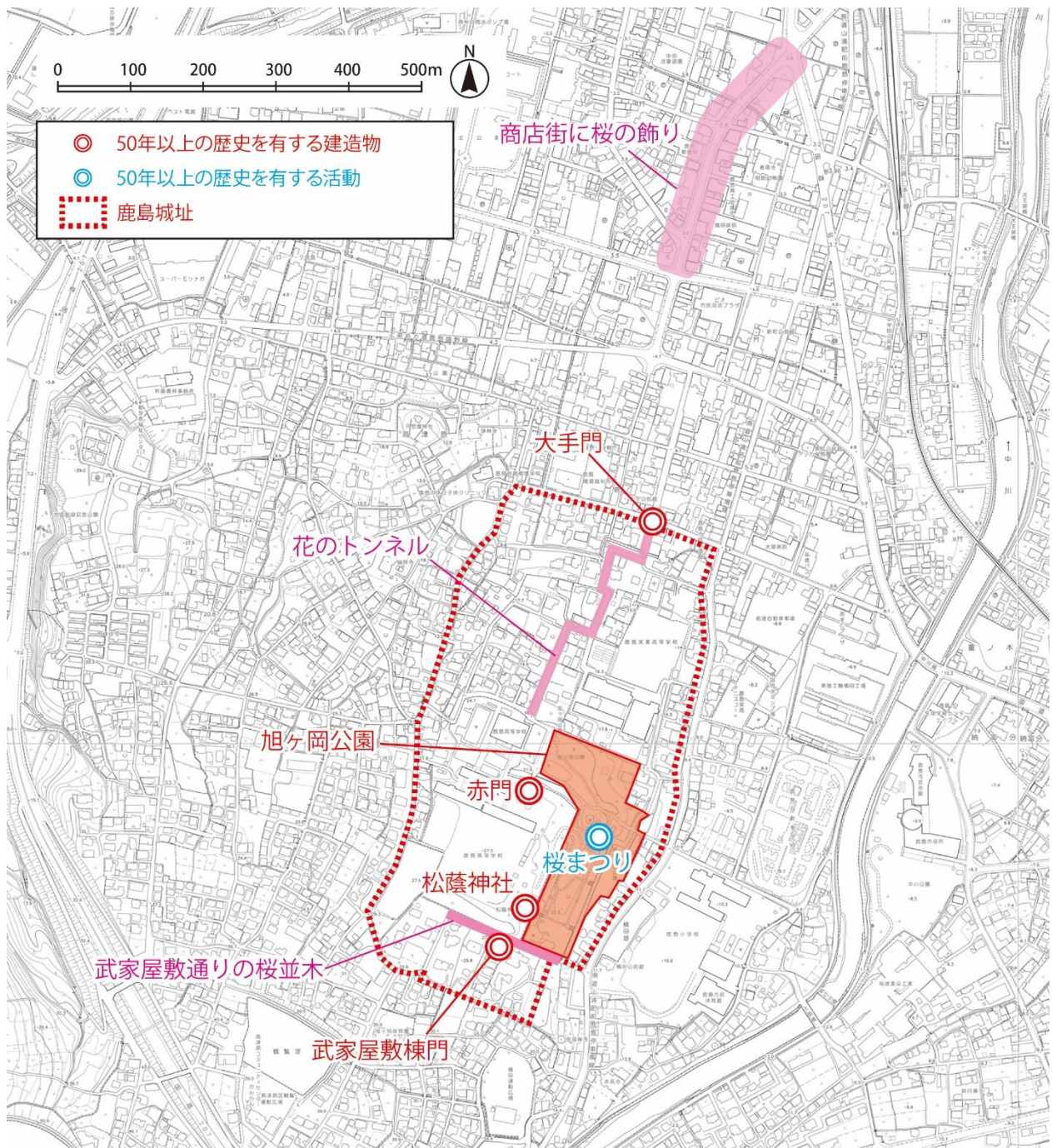


図 桜まつりに関わる建造物とまちなみ

2) 琴路神社の祭り

<琴路神社の祭りの歴史>

毎年11月2日から3日に、琴路神社の例大祭が実施される。例大祭では、獅子舞、神輿、鉦浮立、馬駆け神事の一連の行事のほか、新町子供獅子浮立が行われている。例大祭で行われる一連の行事は「琴路神社の神幸祭行事」として、平成30年(2018)に佐賀県重要無形民俗文化財に指定された。

『鹿島志』(1685)には「仲秋中の卯日に祭祀を行うこと年々恒例となれり。」とあり、江戸時代には琴路神社の祭りが行われていたことが分かる。



写真 琴路神社の例大祭

<琴路神社の祭りの巡行>

祭の初日(11月2日)、琴路神社で神事が行われた後、境内で獅子舞と剣突きの演舞が奉納され、午後3時頃、神輿の巡行(お下り)が始まる。

琴路神社に奉納される獅子舞と剣突きは毎年、南川地区が務めており、獅子面と剣使い面が伝わっている。

琴路神社に奉納される南川地区の獅子舞は所作ごとに「ワーワー」「アーバババー」などと声をかけるので、「ワーワー獅子」とも呼ばれている。獅子面の表情はアーモンド型の目と、鼻の横の白いひげが特徴であり、渦巻き模様があしらわれた布を獅子面に付け、獅子の色に合わせた法被と股引姿で白足袋、草鞋を履く。獅子には赤(雄)と青(雌)があり、2人1組で舞い踊る。(獅子舞の詳細については p.126 の獅子舞の概要を参照。)

剣突きは、獅子舞に付随し、赤天狗(「猿田彦」と伝えられている)と青天狗(「烏天狗」と伝えられている)の2名で構成されている。それぞれ赤と青の天狗装束を着て、手甲、脚絆、白足袋、草鞋を身につけ、金属製の刃がついた木製棒状の鉾を持つ。



写真 琴路神社の獅子舞



写真 剣突き

剣突きは、獅子舞の終わり際に登場し、「オー」というかけ声を発しながら双方から互いに歩み寄り、鉾の刃を上下の位置で合わせたり、相手の鉾の柄を打つなどの動作を行いながら演舞を行う。

神社境内での奉納演舞を終えた獅子舞と剣突きは、下宮である新宮神社へ向けた神輿のお下り行列の露払いとして先に巡行を開始し、道中の氏子宅をまわり、厄払いを行う。また、三差路や四つ角でも演舞を行い、道順を定めるような所作を行う。

神輿の巡行は、行列の露払いを「獅子」と「剣突き」が務め、桶に塩水を入れ柵ではらう「神水振」、割れ竹で地面を打ちながら進む「先祓」、神職等を先頭に出発し、その後には神輿、そして、槍、薙刀、傘や幟、提灯などのさまざまな道具持ち、氏子地区の役員等が続き、最後にお供の鉦浮立が続く。お供の鉦浮立は、氏子地区の中からその年の当番地区が務め、巡行の行列は総勢 300 名ほどにのぼる。

祭の1日目に琴路神社を出発した神輿の巡行は、途中、中宮である琴路宮を經由して、鹿島小学校や鹿島城址、かつての城下町である新町地区などを通り、夜間に新宮神社へ至る。巡行の道中、沿道に集まった氏子は、無病息災を祈願しながら神輿の下を行き来し、厄払いをする。

2日目は正午頃、新宮神社で神事を執り行った後、お上りの巡行を開始する。お上りの際にもお下りの巡行と同様に、獅子と剣突きが神輿の露払いを務め、その後には神輿の巡行が続くが、琴路宮は經由せず、1日目の巡行経路とは別の経路を通り、琴路神社へ戻る。



写真 神輿の巡行



写真 お供の鉦浮立



写真 まちなかを巡行する神輿

夕方頃、神輿の行列が琴路神社の鳥居前へ差し掛かると、馬かけ神事が行われる。人を乗せた数頭の馬が神輿の後ろに付き、先を争って境内に入ろうとするが、神輿は馬を入れまいとそれを遮る。この攻防が何度か繰り返されたのち、先に神輿が鳥居をくぐり、続いて馬群が鳥居をくぐる。境内へなだれ込んだ馬は、我先にと社殿を数周時計回りに駆け回る。馬かけ神事後に神輿を社殿に納め、神事が行われて琴路神社の祭は終了となる。



写真 馬かけ神事

琴路神社の祭り際には、新町子供獅子浮立も巡行を行う。新町子供獅子浮立は、鹿島城の城下町であった新町地区の子供たちが行うもので、女子の一声浮立（踊りの付かない、笛と太鼓で囃す浮立（詳細は p.124「一声浮立」参照）に合わせて、男子が獅子舞を演じるものである。平成28年（2016）9月25日の佐賀新聞の記事によれば、新町子供獅子浮立は地域の一体感を醸成しようと戦後始まったものとされる。同記事には、獅子舞は北鹿島の^{しんごもり}新籠地区、一声浮立は能古見の筒口地区から学び、昭和37年（1962）に初披露したことも記されている。



写真 新町子供獅子浮立（男子の獅子舞）

新町子供獅子浮立は、琴路神社の祭の時期が近づくと新宮神社に集まって練習を行い、琴路神社の祭の際には、神輿や獅子舞の巡行と同様に、琴路神社と新宮神社に獅子舞を奉納し、肥前鹿島駅や市内の公共施設、商店などで獅子舞や浮立の披露を行いながら、まちなかを巡行する。



写真 新町子供獅子浮立（女子の一声浮立）

新町子供獅子浮立は、琴路神社の祭りのほか、通夜、新町地区の敬老会でも披露され、地域の人々に愛されながら現在まで継承されている。企画運営は新町地区子供獅子浮立保存会が行っている。

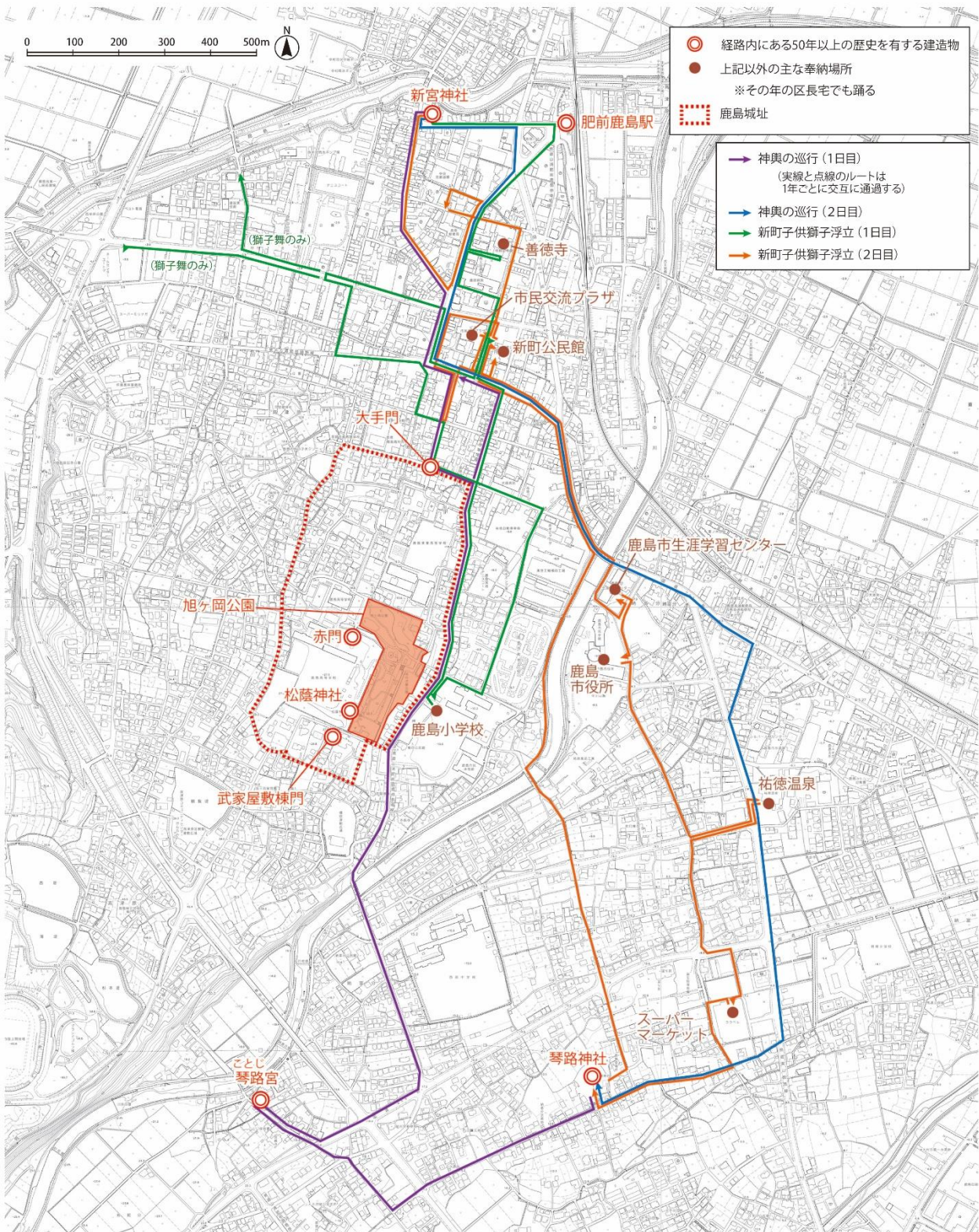


図 琴路神社の例大祭巡行経路

まとめ

文化4年（1807）に築かれた鹿島城は、明治7年（1874）に起こった佐賀の乱でほとんどが焼失しているが、赤門、大手門、武家屋敷棟門、松蔭神社、旭ヶ岡公園は残存しており、往時を偲^{しの}ばせている。

鹿島城址には現在、県立鹿島高等学校があり、赤門は校門として、市民や鹿島高等学校卒業生にも親しまれている。

春には城址一带に桜が咲き、13代鹿島藩主鍋島直彬公が文久2年（1862）に観桜の宴を催したことに由来する桜まつりが、今なお毎年行われている。

秋には、琴路神社の例大祭が行われ、獅子舞や新町子供獅子浮立が、新町など鹿島城の城下町として繁栄した市街地を舞台として巡行する。琴路神社の祭りは江戸時代から行われていたが、戦後になると、子供獅子浮立が行われるようになり、幅広い世代に親しまれる活動として、継承されている。

このように鹿島城址とその城下町を舞台として、藩政期から続く人々の活動が一体となり、歴史的風致を形成している。



写真 旭ヶ岡公園桜まつり



写真 琴路神社の神輿の巡行



写真 まちなかで演じられる獅子舞



写真 新町子供獅子浮立の巡行

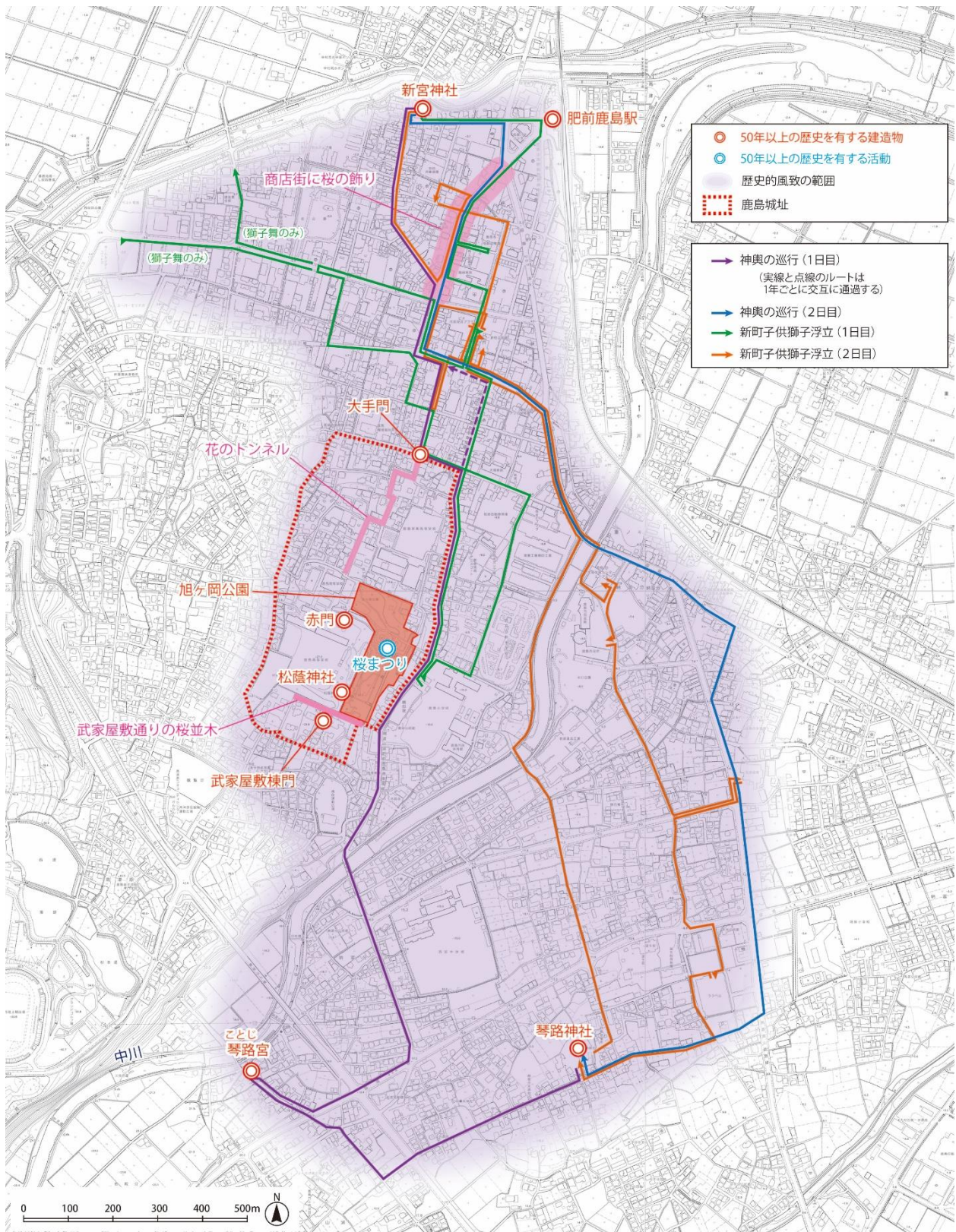


図 鹿島城址と琴路神社の祭りから見える歴史的風致の範囲